

課・タイトル	L2 かいものする
ねらい	生活に必要な物を買うことができる

パート	L2-1
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・買いたいものを店員に言うことができる。 ・いくつ買いたいか店員に言うことができる。 ・店員に値段を聞くことができる。
場面設定	<p>キムさんがハンバーガーショップの注文カウンターでメニューを見て、注文します。</p> <p>店員が支払い金額を言いますが、よく聞き取れなかったので、聞き直します。</p>
場面会話	<p>用意するもの</p> <p>机、レジ代わりの箱、ハンバーガーショップのメニュー、ハンバーガー(絵または模型など)3つ、オレンジジュース(絵または模型など)2つ、店員用の帽子かスカーフ、紙袋(商品を入れる袋)、客用のバッグ、財布、100円玉5つ、10円玉6つ</p> <p>指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・机や箱を注文カウンターやレジに見立てて、実際の場面を想像しながら練習をします。 ・「これ、ください」はしっかりメニューのチーズバーガーを指さして言わせます。数や金額の言い方は文型練習で行います。 ・場面会話の導入では、注文する個数の言い方として「ひとつ」「ふたつ」「みっつ」を例示します。「とお」までの導入は練習3でしますので、ここでは例示にとどめます。また、金額の言い方として100円玉5つと10円玉6つを使って数え方を見せますが、560円が言えればよしとします。ここでは、まず場面会話が言えるようになることが目標なので、他の商品や数を変えて言う練習は後で行います。 ・場面会話は支払い金額の確認で終わっていますが、演じるときは紙袋に入れた商品を受け取って、店を出るところまで演じさせると「買い物ができる」という実感を持たせることができます。
練習1	<p>用意するもの</p> <p>数字の一覧表(テキスト巻頭ii～iii)、数字のカード(0～9)5組、厚紙などで作った紙幣(千円札、5千円札、1万円札)とコイン(1円玉、5円玉、10円玉、50円玉、100円玉、500円玉)</p> <p>「いくらですか。」「値段です。」</p> <p>金額の言い方</p> <p>コインを使って、1円～10円、10円～100円、100円～1,000円を導入し、紙幣を使って、1,000円～10,000円、を導入します。数の基本の言い方とは異なる次の金額の言い方に注意させます。4円、300円、600円、800円、1,000円、8,000円</p> <p>一度で数や金額の言い方を習得することはできないので、毎日数分間数や金額の言い方の練習をするようにします。練習は、金額を見て言う練習と、聞いて書く練習を行います。</p>

練習2**用意するもの**

かばん3つ、値札(3,200 円、11,600 円、8,800 円、1,234 円、1,800 円など)

「これ」「それ」「あれ」「どれ」

テキスト p.40 **2**①

(1)「これ」「それ」の導入と練習

学習者1名と教師が向かい合い、それぞれ手元に自分のかばんを置きます。教師は自分の手元のかばんを指して「これ」と言い、自分を指して「これは私のかばんです。」と言い、自分の物であることを伝えます。次に、学習者の手元のかばんを指して「それ」と言い、学習者を指して「それは～さんのかばんです。」と言います。同様に学習者にも言わせます。学習者は、自分の手元のかばんを指して「これ」と言い、自分を指して「これは私のかばんです。」、教師の方のかばんを指して「それ」と言い、「それは先生のかばんです。」と言います。

今度は学習者をペアにして、それぞれ自分のかばんを使って、同様に言わせます。次に、かばんを学習者が持っている他のもの(ボールペン、テキストなど)に変えて、同じように言わせます。

さらに、学習者の物を集めて、それがだれのものかを言う練習をします。一人の学習者が前に出て、集めた物の中から一つ手に取って、「これはだれの～ですか。」と聞きます。その物の持ち主が立って、質問した学習者が持っている物を指して、「それは私の～です。」と答えます。逆に、学習者が手に持っている物を指して、「それはだれの～ですか。」と聞き、持っている学習者が「これは～さんの～です。」と答えます。

自分の領域にあるものを「これ」、相手の領域にあるものが「それ」で言えるかどうか、確認します。

(2)「あれ」の導入と練習

今度は、学習者1名と教師が横に並びます。二人から離れたところに教師のかばんを置きます。教師はそのかばんを指して「あれ」と言い、続けて「あれは私のかばんです。」と言います。同様に学習者にも言わせます。

学習者をペアにして、(1)同様に、自分の持ち物を使ったり、他の学習者の持ち物を使ったりして練習をさせます。

(3)「どれ」の導入と「これ」「それ」「あれ」を使って答える練習

学習者たちのかばんを集めて前に並べます。学習者(A)を前に呼び、教師は「Aさんのかばんはどれですか。」と、学習者(A)に聞きます。学習者(A)は自分のかばんを持って、「これです。」と言います。次に、学習者(A)を席に戻し、教師はたくさんのかばんの前で「Aさんのかばんはどれですか。」と学習者(A)に聞きます。学習者(A)は「それはそれです。」と答えます。さらに、教師が席にいる学習者(A)のそばに立ち、「Aさんのかばんはどれですか。」と聞きます。学習者(A)は「あれです。」と言います。

今度は学習者をペアにして、学習者の持ち物を使って、同様の練習をさせます。

テキスト p.41 **2**②

AはBと一緒にかばんを買いに来ました。売り場でA、Bが商品を手に取って見えています。AはBの持っている商品の値段を聞いて、Bが持っている方を買うと言います。

	<p>学習者に自分の持ち物に値札を付けさせ、適当に金額を書かせます。それを使って、A、Bの役を演じながら会話をさせます。どちらを買うことにしてもいいですが、「それ」「これ」が正しく使えることがポイントです。</p>
練習3	<p>用意するもの ボール・紙コップ・いす・ケーキ(実物または絵)各10個、「ひとつ」～「とお」の文字カード 「いくつですか。」「個数です。」 テキスト p.41 3①②</p> <p>①では、ボールを使って数を数えていきます。一度に全部言うのではなく、少しずつ言ったら文字カードを見せて確認をしていくと覚えやすいでしょう。「とお」まで言えるようになったら、1)～4)の練習をします。1)～4)の数を変えて、反射的に言えるように練習します。</p> <p>②では、教室の机や椅子を使って、実際に動きながら会話の練習をします。A、B役の学習者が数を言いかえて練習をしてもいいでしょう。</p>
練習4	<p>用意するもの 厚紙などでつくったお金 「すみません。物(を) 個数 ください。」 テキスト p.42 4①</p> <p>買いたい物とその数を言う練習をします。「を」は省略することができます。両方の言い方の練習をしてください。</p> <p>「物(を) 個数と 物(を) 個数 ください。」 テキスト p.42 4②③</p> <p>2種類以上の物を買うときの言い方を練習します。</p> <p>③は、店頭にいることをイメージしながらメニューを見て、自由に注文します。店員役の人は全部でいくらか計算をして、支払う金額を伝えてください。</p>
はなしましょう	<p>できますか？ 学生のタンさんがコンビニで買い物をします。レジの近くにあるコロッケを指して「これ、ください。」と言います。タンさんはコーラも買います。店員の言った金額が聞き取れなかったので、聞き返します。</p> <p>これも できますか 店頭で買いたいと思ったドーナツを指さして、値段を聞き、それぞれ買いたい個数を言います。</p>

パート	L2-2
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・売り場はどこか店員に聞くことができる。 ・商品がどこにあるか店員に聞くことができる。
場面設定	<p>りさんがデパートへビジネスシューズを買いに行きます。入り口にある案内所で靴売り場はどこか聞きます。靴売り場に行きますが、ビジネスシューズがどこにあるかわからないので、店員に場所を聞きます。</p>

場面会話	用意するもの 案内所用の机、店員用の帽子とネクタイ、客用のかばん、ビジネスシューズ・スニーカー（絵または写真） 指導のポイント ・場面会話の1, 2コマ目(案内所)と3, 4コマ目(靴売り場)と分けて練習します。4コマを通して演じる場合は、案内所の場所と靴売り場の場所を離し、移動させて会話をさせます。 ・場所の聞き方として「どこですか。」「どこにありますか。」を出しています。使い分けを指導する必要はありませんが、この場面会話では「どこですか」で大まかに場所を聞き、「どこにありますか。」でより詳細に所在を聞く、という使い方をしています。
練習1	用意するもの デパートの階の言い方の文字カード、商品名の文字カード 「 〜うりば は どこですか。」「 階 です。」 テキスト p.46 1 ①② 「 〜うりば は なんがいですか。」 テキスト p.46 1 ③ まず、階の言い方を練習します(いっかい、にかい、さんかい／さんがい、よんかい、ごかい、ろっかい、ななかい、はちかい／はっかい、きゅうかい、じゅっかい、ちかいっかい、ちか2かい、なんがい)。 シャツ、セーターなどの語句を導入して、売り場の階を聞く練習をします。会話は動作をつけて練習します。
練習2	用意するもの 各商品のイラスト(小)をペアの数分 「 商品 は どこにありますか。」「 商品 の 位置 です。」 テキスト p.47,48 2 ①～③ 位置詞のうち、「となり」「まえ」「うしろ」を使う練習をします。まず、この3つの位置詞と①～③に出てくる食品や衣類の名称を導入し、位置を言う練習をします。 例: (1)学習者をペアにして、店員役、客役を決め、店員役に商品のイラストをコピーした紙を渡します。 (2)店員役は商品の位置を決め、商品のイラストが見えないように下にして並べます。 (3)客役は商品の場所を店員役に聞き、店員役は位置詞を使ってその場所を教えます。 (4)客役がその位置の紙をめくります。聞いた商品が出たら OK です。
はなしましょう	できますか？ デパートで靴下売り場を聞きます。 これもできますか？ ショッピングセンターで年配の客に食品売り場を聞かれます。売り場案内の図を見て教えます。その後、トイレに行きたくなって、店員にトイレがどこにあるか聞きます。

パート	L2-3
できること	<ul style="list-style-type: none"> ・他に商品があるかどうか聞くことができる。 ・買わないで店を出ることができる。
場面設定	<p>サラさんがかばん売り場でかばんを見えています。いいと思ったかばんがあったので、店員に取ってくれるように頼みます。手に取ってもってみると重いので、軽いかばんはないかと店員に聞きます。店員は他のかばんを持ってきますが、サラさんは大きさが気に入りません。サラさんは買いたい商品がないので、買わずに店を出ます。</p>
場面会話	<p>用意するもの 黒いかばん(大、小)、白いかばん、その他の色のかばん数個、店員用の上着、客用ショルダーバッグ</p> <p>指導のポイント</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ほしい商品ではないとき、「ちょっと～ですね。」と簡単に気に入らない理由を言います。また、買わないで店を出るときは「すみません。またきます。」と言って店を出ます。 ・声調や動作と一緒に練習をさせてください。
練習1	<p>用意するもの 黒・白・その他の色の靴(実物または絵)3～5足、帽子(実物または絵)3～5つ、帽子の値段の一覧表、ネクタイ(実物または絵)3～5本</p> <p>「この・その・あの・どの 商品」</p> <p>テキスト p.52 1①②</p> <p>「これ」「それ」「あれ」「どれ」は既習なので、「この 名詞」「その 名詞」「あの 名詞」「どの 名詞」の形を使って言う練習をします。テキスト p.52 1の「このくつ」…のイラストのように導入をします。</p> <p>実物があれば実物を使って、①②の練習をします。①は、帽子売り場にある帽子を一つとって、店員に値段を聞きます。②は、BがAがいいと言ったネクタイを買います。</p>
練習2	<p>用意するもの 黒いかばん・白い傘・赤い靴・茶色いシャツ・黄色い花・青い海(写真または絵)、赤・白・黒などの傘3～5本、シャツ・セーター・タオル・靴(実物または絵)それぞれ異なる色を数枚ずつ</p> <p>「色 商品」「色の」</p> <p>テキスト p.53 2①～③</p> <p>①では色の言い方を練習します。「～い 名詞」の形で練習します。「～の 名詞」の形になる色もありますが、ここでは扱いません。学習者から質問が出たら、「の」を使う形もあること、「～い」にならない色があることを言います。</p> <p>②は、店頭で店員に店頭には見当たらない色の商品を見せてほしいと言っている場面です。</p> <p>③は、A、Bが店頭で商品を見て、それぞれ自分がいいと思う商品を言い合っています。</p> <p>いずれも声調や目線に気を付けて演じて練習をします。商品をいろいろ変えて練習をしてください。</p>

<p>練習3</p>	<p>用意するもの かばん(大きい、小さい、重い、軽い)・シャツ(大きい、小さい)・ベルト(長い、短い)・財布(高い、安い)・スカート(短い、長い)・傘(大きい、小さい) (実物または絵)</p> <p>「い形容詞です。」</p> <p>テキスト p.543①</p> <p>できれば実物を使って、「おもい・かるい」「おおきい・ちいさい」「ながい・みじかい」「たかい・やすい」を導入し、練習します。</p> <p>「い形容詞 名詞」</p> <p>テキスト p.543②</p> <p>イラストや実物を使って、「～い～はありますか」「はい、あります」の会話練習をします。</p> <p>「い形容詞の」</p> <p>テキスト p.54,553③④</p> <p>③は、スカートの実物か絵で書いたものを使って、演じて練習をします。</p> <p>④は、できれば実物を使って、演じて練習をします。</p>
<p>練習4</p>	<p>用意するもの スーツケース、上着、くし、はさみ、鏡、化粧ケープ(なければ風呂敷やスカーフなど)</p> <p>「～いですか。」「いいえ、～くないです。」</p> <p>テキスト p.554①～③</p> <p>①は、スーツケースを使って導入の会話をし、1)～4)のイラストを見て、代入練習をします。</p> <p>②は、実際に上着を使って、動作をしながら発話します。</p> <p>③は、店員役の学習者にははさみとくしを、客役の学習者には鏡を持たせます。</p>
<p>はなしましょう</p>	<p>できますか？</p> <p>用意するもの: 似たスニーカー(大・小)、客用かばん</p> <p>靴売り場で気に入った靴を店員に取ってもらって履いてみます。大きいので、小さいのを出してもらいますが、今度は小さすぎるので買わずに売り場を去ります。</p> <p>これもできますか？</p> <p>用意するもの: 似たセーター(大、小)、色が違うセーター(小)、客用かばん、店員用上着</p> <p>セーターを試着しますが、サイズが大きいので、店員に小さいのを出してもらいます。今度はちょうどいいので、値段を聞きます。すると、値段が高いので、安いのを出してもらいます。しかし、それは色が気に入りません。買わずに店を出ます。</p>

アクティビティー	<p>しらべましょう</p> <p>まず、日本円と自分の国の通貨レートを調べます。次に、日本と自分の国の物価の違いを調べてみます。テキストにある「たまご」「トイレトペーパー」「タクシー」の値段や、その他学習者が自分の関心のある物の値段を、事前にインターネットやお店などで調べさせておくといいでしょう。値段がわかったら、自分の国の通貨に換算させてみます。</p> <p>しつもんしましょう</p> <p>いろいろな物について、他の学習者の国での値段を聞きます。事前に調べたものについて、情報交換してみましよう。情報交換の前に、テキストにある質問の仕方を練習します。</p> <p>いいましょう</p> <p>調べたことをみんなに発表します。発表の前に、発表のときの言い方を練習します。</p>
よみましょう	<p>指導のポイント</p> <p>ショッピングセンターのチラシを見て、自分が買いたいものがどこにあるか、情報検索をします。まず一人でやってみます。終わったら、学習者同士で質問の答えを確認し合います。</p>
かきましょう	<p>指導のポイント</p> <p>金額の読み方をひらがなで書きます。</p> <p>口頭練習では、例えば「4円」を「よんえん」「よえん」のように、正しく発音しているかわかりにくいので、読み方を書いて、正しい読み方を確認させます。4円、9円、14円、70円、90円、300円、600円、800円、900円、1,000円、3,000円、8,000円、9,000円、10,000円なども書かせてみるといいでしょう。</p>